

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071700571		
法人名	有限会社 グループホーム みんなの家		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	福岡県直方市大字上頓野3635-1 (電話) 0949-26-6808		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年4月12日	評価確定日	平成19年6月20日

【情報提供票より】(平成19年3月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	12 人, 非常勤 0人, 常勤換算 0人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての 1～1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成19年3月28日現在)

利用者人数	8名	男性	1名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	0名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	68歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菅原呼吸器科・内科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

直方市街地から北東に向かって約7～8キロの福智山系・尺岳のふもとに近い、自然に恵まれた静かな場所に位置する事業所である。管理者は、福祉施設での長年の実績を活かし、小規模で家庭的な雰囲気の中で高齢者の介護をしたいという強い気持ちで事業所を開設し、家族の協力を得ながら運営している。日常的な介護は自然で温かいサービスが行われている。ゆったりとした時間が流れている家庭的な事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	過去2回外部評価を受け、公表された際に職員会議で課題を話し合い改善に取り組んでいる。前は、記載事項の不備があったが、チェック表を新たに設定するなど記録に関しては、ほぼ改善されていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成は、全職員で取り組んでいる。その中で、地域権利擁護事業や成年後見制度に関しては十分に取組めない事実を自己評価し、今後の課題としてあげている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、市役所職員・隣組長・民生委員児童委員・公民館長・家族会代表がメンバーとなっている。外部評価の内容や事業所の悩みなどを相談している。メンバーから高齢者による食物のヒントなどももらっている。メンバーは流動性を持ち、消防署や協力病院の医師にも参加を呼びかけるなど、積極的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族会があり、家族との連携は取れている。これまで3回開催され、日常の様子を冊子にまとめて家族に渡している。ほとんどの家族が面会に来るため普段のコミュニケーションも取れている。苦情相談窓口と意見箱は玄関に設置しているが、これまで活用された事は無い。苦情受付窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、町内会や地域行事、自治会の会合に参加している。近所の方から野菜をもらったり、週1回、独居高齢者に昼食を届けるサービスを行っている。地域と触れ合いながら良い関係が出来ている。災害訓練なども地域の方と連携が取れるとより理想的な関係が出来るので、今後取り組んでほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念があり、利用者や家族に対して分かりやすい言葉でつくりあげている。理念には事業所を地域の方々に気軽に出入りしていただけるような場したいということも含まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼で理念の唱和をし、職員がいつも理念を意識して毎日の介護に努めている。近所の方とのふれあいや地域行事に参加するなど交流を図り、利用者の楽しみを増やすよう努めている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、町内会や地域行事、自治会の会合に参加している。近所の方から野菜をもらったり、週1回、独居高齢者に昼食を届けるサービスを行っている。また近くの小学校の運動会には毎年見学に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去2回の外部評価を受け、公表されると全職員で検討し、課題になっている部分を職員会議で検討して改善に努めている。前回は記録に関して不十分な点があったため、新たにチェック表を作成して改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は行政職員・民生委員自動委員・公民館長・町内組長・家族会のメンバーで構成されている。外部評価の結果報告や現在抱えている問題点を出して意見を伺っている。委員の意見は職員に伝えて、サービス向上に活かしている。また、議事録を作成している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との連絡は取れており、介護サービスの件や地域密着型のサービスについての問い合わせ等をしている。行政を通じてサービスの拡大に努め、同時にそれに答えられるよう事業所内の質の向上にも努めている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者はこの制度について全職員が周知する必要を感じ自ら学び、また資料やパンフレットを取り寄せ、職員に知らせている。制度について、利用者や家族等への説明は特に行っていない。	○	職員会議や勉強会で、制度の概要を知る事から始めて、全職員が同じレベルで周知し、必要な利用者や家族等に説明し、支援できるようにしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に状況説明を行い、家族から意見を聞く機会がある。また全家族とは必ず連絡がとれる仕組みがある。預かり金をしている利用者には1ヵ月ごとに決算し、出納帳に毎月家族から確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等へ事業所内の苦情相談窓口を説明し、また意見箱も設置して。家族からの意見は、家族会や日常的に聞く仕組みはある。	○	苦情受付窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔なじみの職員によるケアを心がけているが、離職等やむを得ない場合は、その時期や引き継ぎの面で最善の努力をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては年齢・性別等で排除しないようにしている。採用基準は高齢者に優しく接する事と仕事への意欲があることである。資格を取りたい職員には支援し、働きながら資格取得が出来るようにしている。また個人の能力を活かすように配慮もしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者のみならず、職員(パートも含む)の人権を含めて人権教育には取り組んでいる。研修会や講習にも参加している。講習会や研修会に参加し、その資料やテキストも確認できた。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会に属しており、出来る限り研修に参加し、それを他の職員に職員会議や勉強会で伝えるようにしている。介護の質の向上を目指し、パート職員も含めて研修の機会を作っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員同士の交流や相互訪問など、具体的な取り組みはまだなされていない。	○	サービスの質の向上に向けて、地域の同業者と積極的に交流の機会を持ち、情報交換等に努めてほしい。
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネージャーや家族に見学に来てもらい、その後、体験をしてもらう事が多い。時間を少しずつ延長して1週間くらい体験して、入居に移行するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の後片付けや洗濯物を干したり、取り込んでもらっている。日常生活の中で昔の言葉やことわざを教えてもらう事等、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人の希望を聞くように家族とも連携をとりながら要望を見出すようにしている。髪を染めたい、美容院に行きたい、買い物や散歩に行きたいなど本人の希望を毎日確認しながらスケジュールを立てている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族の意見を聞き、職員と管理者(計画作成担当者)が話し合いながら立てている。通院治療を受けている利用者もいるので、主治医の意見を聞きながら計画を立てている。介護計画書には家族の押印もされている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3～4ヶ月を基本としている。何も変化がない利用者も見直している。途中で何か変化があったときやヒヤリハットの事があれば現状に合わせて見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時に家族と話し合って終末医療まで話している。入院したときは出来るだけ早く退院できるように病院との連携をとっている。また退院後も協力病院の医師と24時間連絡が取れる体制を作っている。事業所の特長を活かした柔軟な支援をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医の受診を基本としている。受診の際は職員が付き添うよう配慮している。また、2週間に1回、協力医院の医師の往診があり、全利用者への受診支援を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と話し合いながら、本人や家族の希望を聞き、意思確認をして、医療関係者と連携をとりながら、全員で方針を共有して取り組んでいる。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保に関しては、日頃よりミーティングや勉強会等で意識付けがなされている。排泄の失敗や本人が傷つくような場面では、他の人に配慮した声のトーンや目立たないように処置するなど、配慮している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは特に立てられていない。それ程本人本位で、天気がよければ散歩に行ったり買い物についていくなど、自由に毎日の計画が立てられている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞き、その日の食材を見ながら献立を作っている。職員も同じものを食べて、食事を楽しみながら介助もしつつ、なごやかな食事風景がある。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかに入浴日が決められているが、利用者の希望にあわせて、いつでも入浴できるよう支援している。入浴拒否の人には、足浴や清拭で清潔保持を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの好みにあわせて、詩吟やカラオケなど、楽しみごと等支援をしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩だけでなく、桜や彼岸花等の花見、ドライブや定期的な外食、地域のレクリエーションに参加する等、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう様々な支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に全ての出入口は施錠されていない。全職員施錠の弊害を理解している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害訓練は年2回、実施している。消防署の指導のもと、消火器の使い方等を学んでいる。緊急連絡網は食堂に張り、またマニュアルを作成している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。また非常食や水を確保してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量のチェック表があり、状態の把握は出来ている。また治療中の利用者の栄養管理は、主治医と相談している。半年毎に保健所で栄養バランスやカロリー計算の指導を受ける仕組みがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近には花を植えたプランターがあり、共用空間には和室、床の間、神棚、掛け軸を配して、家庭的雰囲気配慮している。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・クローゼット・エアコン・換気扇が備え付けられ、筆筒や椅子やテレビなどが持ち込まれている。各居室はそれぞれ花が飾られ、馴染みの物や大切な物が持ち込まれており、家庭的な雰囲気がある。		

※ は、重点項目。